

社会福祉法人のチャレンジ

新たな社会福祉法人像の構築

「社会福祉法人豊友会」

「二事業併設で効率運営」 「沖縄方式」

一、法人・施設の概要

法人名 社会福祉法人 豊友会
 理事長 森田 勲
 事業所名 島添ホーム(自立援助ホーム)、ファミリーホーム(併設)
 ホーム長 比嘉恒雄
 住所 与那原町字与那原三三〇の二
 (児童養護施設「島添の丘」)
 大里村字大里三三〇〇
 連絡先/九四五三三二(島添ホーム)
 九四六三三三(島添の丘)

二、事業の実践概要

・事業内容

児童自立生活援助事業、児童養護施設分園型自活訓練事業

〈児童自立生活援助事業〉

児童の自立援助を図る観点から、児童養護施設や児童自立支援施設等を退所し、就労する児童に対し、共同生活を営むべき住居(自立援助ホーム)において、相談や日常生活の援助及び生活指導を行い、社会的自立の促進を図る。



〈ファミリーホーム(児童養護施設分園型自活訓練事業)併設〉
 主に高校三年生を対象に、自立生活の訓練を行う。財源(県補助金)。開始年月日(平成四年十二月一日)。住居(借家二階建)

三、実践に至った経緯と現状、課題

豊友会(児童養護施設「島添の丘」が「児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)」「児童養護施設分園型自活訓練事業(ファミリーホーム)」の二つの事業を始めたのは平成四年のこと。今年で十三

年目を迎える。沖縄県児童養護協議会が実施した養護施設退所児童の追跡調査の結果、「本当は沖縄で働きたいが本土に行くしかない」「住み込みができる仕事にしか就けず長続きしない」等、卒園児の就職定着率の低さが浮き彫りとなった。これを受け、施設を卒園していく児童が良き社会人となるための自立生活指導や職場開拓、安定的な就労の斡旋を図ることを目的として、県内初となる二事業が開始された。

本来は、自立援助ホームとファミリーホームは別の事業であるが、同じ敷地内で行うことにより、三名の児童指導員(内二名は非常勤)の配置が可能となり、双方を効率的に運営することができ。この方式は、全国から「沖縄方式」と呼ばれ、特徴ある運営形態として注目を集めている。

現在、島添ホームでは十一名(十六歳～二十二歳)の児童に対し、社会的に自立するために必要な生活指導および児童を安定した職場に就かせるための援助を行っている。また、与那原町の大綱引きで使う綱作りを手伝ったり、地域の運動会へ選手として参加したりと、地域との関わりも大切にしている。

取り組みの中で抱える大きな課題は各児童に適した職探し。職業訓練が十分でないために職業に対する自覚が芽生えにくく、職場体験も少ないという現状がある。長期的に安定した職に就くためには、受け入れ先となる企業等の理解を得て、事前の職場体験活動を行

う必要がある。ここでは職員だけではなく事業主の方、地域の方と一緒に、子ども達を育てる・支援するという意識を持つことが大事になっている。

四、今後の展望

島添ホームでは独自の運営方法を活用して、ファミリーホームに在る間に、さまざまな職場体験、職業訓練をさせて、自立援助ホームに移る段階で、自分の働ける職種を見つけてもらいたいと考えている。そのためには、就労先の企業等が社会貢献活動として、当該児童の雇用や社会人となるような育成支援等にも特段のご協力・ご尽力をいただけるように啓発し、社会資源の活用や支援システムを構築していく必要がある。

五、今回のチャレンジに思う

島添ホームは、自立生活訓練や就労斡旋を行う自立生活援助事業を県内の児童養護施設等の総意のもとに、先駆的に事業を展開し、職員が親代わりともなっており、多くの児童を社会に送り出している。社会福祉法人豊友会では今後とも役職員の皆様が「丸」となり、長年培ってきた専門性を生かしつつ、対象児童が身近な地域の方々を始め、関係機関・団体、企業等の理解と支援を得ながら、社会人として心豊かに、逞しく自立していきけるように支援するため、本事業を積極的に推進していくこととしており、他の社会福祉法人が新たな事業を展開していく上で、大きな示唆を与えてくれる。



平成十五年度 赤い羽根共同募金運動実績報告

昨年、十月一日～十二月三十一日までの三ヶ月間にわたって展開されました「赤い羽根共同募金運動」では、県内各市町村共同募金会(支会・分会)において温かいご支援・ご協力をいただきましてありがとうございました。平成十五年度は、企業からの寄付金が半分になるなど不況が影響したのか、達成率九十五・七%と目標額を下回ってしまいましたが、二億二千八百万円余りの募金が集まりました。



(単位:円)

市町村名	目標額	実績額	達成率
那覇市	45,822,000	37,323,962	81.5
豊見城市	6,900,000	7,234,542	104.8
糸満市	8,105,000	8,309,527	102.5
東風平町	3,494,000	4,393,124	125.7
具志頭村	2,011,000	2,055,236	102.2
玉城村	2,089,000	2,423,533	116.0
知念村	1,382,000	1,699,532	123.0
佐敷町	3,288,000	3,429,375	104.3
与那原町	2,851,000	2,954,637	103.6
大里村	2,701,000	3,737,350	138.4
南風原町	5,630,000	6,169,929	109.6
久米島町	2,239,000	2,495,150	111.4
渡嘉敷村	361,000	554,111	153.5
座間味村	369,000	529,000	143.4
粟国村	364,000	407,470	111.9
渡名喜村	431,000	668,130	155.0
南大東村	355,000	364,663	102.7
北大東村	372,000	381,725	102.6
小計	88,764,000	85,130,996	95.9
平良市	6,678,000	5,611,545	84.0
下地町	748,000	693,409	92.7
城辺町	1,694,000	1,784,216	105.3
伊良部町	1,515,000	1,348,455	89.0
上野村	747,000	761,933	102.0
多良間村	489,000	721,615	147.6
小計	11,871,000	10,921,173	92.0
石垣市	7,742,000	4,938,310	63.8
竹富町	1,634,000	1,843,132	112.8
与那国町	840,000	1,030,668	122.7
小計	10,216,000	7,812,110	76.5
合計	238,386,000	228,194,389	95.7

平成15年度 共同募金市町村実績額

(単位:円)

市町村名	目標額	実績額	達成率
国頭村	2,042,000	2,179,485	106.7
大宜味村	1,136,000	1,157,911	101.9
東村	581,000	657,565	113.2
今帰仁村	2,116,000	2,460,149	116.3
本部町	3,687,000	3,473,744	94.2
名護市	12,589,000	9,681,848	76.9
恩納村	2,845,000	2,280,749	80.2
宜野座村	1,182,000	1,276,117	108.0
金武町	1,789,000	1,853,508	103.6
伊江村	1,168,000	1,399,702	119.8
伊平屋村	651,000	676,789	104.0
伊是名村	428,000	539,544	126.1
小計	30,214,000	27,637,111	91.5
石川市	5,687,000	5,692,405	100.1
与那城町	2,963,000	2,993,727	101.0
勝連町	3,145,000	3,349,660	106.5
具志川市	11,100,000	10,412,147	93.8
沖縄市	17,430,000	16,074,936	92.2
読谷村	6,498,000	6,390,029	98.3
嘉手納町	4,026,000	4,236,343	105.2
北谷町	4,622,000	4,281,000	92.6
北中城村	2,748,000	2,872,458	104.5
中城村	3,446,000	3,256,962	94.5
宜野湾市	13,650,000	13,786,520	101.0
西原町	3,875,000	5,848,000	150.9
浦添市	18,131,000	17,498,812	96.5
小計	97,321,000	96,692,999	99.4



ちょっとしたこと

- ①肘を伸ばす?、曲げる?によってどうかわる?
- ②介助される方のお尻の位置、腰の位置によってどうかわる?

車いすの介助が楽になる方法



介護実習普及センター はあむるセンター

1、肘を曲げる

手首から肘までと腰に負担が特に集中しやすく、腰痛の方、腰の弱い方、手にケガなどをしてしている方は気をつけて下さい。

2、肘を伸ばすと

車いすや車いすに乗っている方の重さが介助する方の体全体に伝わり、その重さが車いすを動かす力として特に脚力で調整することにより楽な介助方法が可能になると考えられます。
 *脚力をつけることがポイントです。

3、お尻の位置が車いすの後方部分にフィットしない

車いすと車いすに乗っている方の重さが一体化し、スムーズな車いす操作が可能になると考えられます。

4、お尻の位置が車いすの前方に位置し、背もたれをした状態

車いすと車いすに乗っている方の重さが介助する方に片寄りし、負担が大きくなると考えられます。
 *車いすに乗っている方は腰痛等の原因につながる恐れがあると考えられます。

【お問合せ】 沖縄県介護普及・実習センター 電話(098) 882-1984